

音楽科 4年

題材	I 重なり合う音のひびきを楽しもう			4・5月(10時間)
目標	音色や音の重なりと曲想との関わりに気づき、音の重ね方を工夫して歌っている。			
評価規準	(①知・技)音色や音の重なり方と曲想との関わりに気づき、ハ長調の楽譜を見て歌ったり演奏したりしている。 (②思・判・表)声の音色や音の重ね方を工夫して表現することについて思いや意図をもったり、二重唱の演奏のよさや曲の面白さを味わって聴いたりする。 (③主体的態度)歌声による表現や旋律が重なり合う響きのよさを感じ取りながら、表現したり聴いたりする学習に進んで取り組もうとしている。			
教材	いいこと ありそう 里乃塚玲央 作詞 佐井孝彰 作曲 ハ長調 4分の4拍子 p12 パパゲーノとパパゲーナの二重唱【鑑】 モーツァルト 作曲 p16 風のメロディー 平野祐香里 作詞 鹿谷美緒子 作曲 ヘ長調 8分の6拍子 p14 まきばの朝 文部省唱歌 船橋栄吉 作曲 ハ長調 4分の4拍子 p18 陽気な船長 市川都志春 作曲 ハ長調 4分の4拍子 p32			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『いいことありそう』を歌ったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりして、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ 音の重なり合う響きを楽しもう	○音の重なり方の違いに気付けるように、それぞれの旋律を色分けしながら歌う機会を設定する。	◇音の重なり合う響きに気づき、音の重なり合う面白さについて発言したり記述したりしている。 <発言・記述③>
追求する	2 1 2 1	○『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』を聴く。 ○『風のメロディー』を聴いたり、歌ったりする。 ○『風のメロディー』の副次的な旋律をリコーダーで演奏し、歌声と合わせて演奏する。 ○『風のメロディー』の副次的な旋律の一部分をつくり、演奏する。	○掛け合いをする部分と重なっている部分に気付けるように、2人がかけ合いながら歌っている動画を用意する。 ○リコーダーと歌声との重なり方に気付けるように、主旋律だけの演奏と2つの旋律を重ねた演奏を比較できる音源を用意する。 ○曲想に合った音色を見つけられるように、いろいろな音色をイヤホンを使って試しながら繰り返し演奏する機会を設定する。 ○音を選ぶ際には、まとまりのある旋律になるように、フレーズの初めの音や終わりの音、演奏のしやすさ等を視	◇音の重なり合う響きの面白さと曲のイメージとを結び付けて発言したり、記述したりしている。 <発言・記述②> ◇リコーダーの音源を聴きながら声を合わせて歌おうとしている。 <表現③> ◇曲想に合った音色を工夫しながら、リコーダーを演奏したり歌ったりしている。 <表現①> ◇主旋律に合うように、音を選んで副次的な旋律をつくって演奏している。 <表現・記述②>
まとめ	2 1	○『陽気な船長』の旋律をリコーダーで演奏する。 ○『陽気な船長』の音を合わせて演奏する。	○音程を捉えることができるように、階名で歌ったり、運指を確認したりする時間を設定する。 ○同じ旋律を演奏する場面と、2つの音を重ねる場面の響きの違いに気付けるように、それぞれを比較しながら演奏する機会を設定する。	◇正しい音程で旋律を演奏している。 <表現①> ◇旋律の重ね方と曲想との関わりに気づき、音を合わせて演奏している。 <発言・表現①②③>
【備考】				
・音楽を形づくっている要素：音の重なり、音色 ・音符、休符、記号や用語：付点8分音符、16分音符				

題材	2 リズム名人になろう		5・6月(7時間)
目標	曲想とリズムとの関わり気付き, いろいろなリズムを楽しみながら, 音を合わせて演奏したり, リズムアンサンブルをつくったりする。		
評価 規準	(①知・技)曲想とリズムとの関わりについて気付き, 拍にのってリズムを合わせて演奏したり, リズムアンサンブルをつくったりする。 (②思・判・表)曲想とリズムの関わりを生かし, いろいろなリズムで演奏することについて思いや意図をもつ。 (③主体的態度)いろいろなリズムに関心を持ち, リズムや打楽器を変えながら, 楽しく演奏しようとする。		
教材	楽しいマーチ p 20 いろいろな木の実 言葉でアンサンブル 市川都志春 作曲 ハ長調 4分の4拍子 p 22 保富康午 作詞 メラー 作曲/加賀清孝 編曲 ハ長調 4分の2拍子 p 24		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『楽しいマーチ』を手拍子で演奏し, 学習のめあてをつかむ。 学習のめあて いろいろなリズムを楽しみながら演奏しよう	○手拍子を楽しく打つことができるように, 伴奏に合わせて演奏する機会を設定する。 ◇曲想とリズムの関わりを生かしながら, 楽しくリズムを打っている。 <表現①②③>
追求する	1	○『楽しいマーチ』をリズムを楽しみながら合奏する。	○様々なリズムに親しめるように, 複数の旋律を順番に演奏する機会を設定する。 ◇拍にのって手拍子や楽器を合わせて演奏している。 <表現①>
	2	○『いろいろな木の実』を歌と打楽器を合わせて演奏する。	○歌に合わせてリズムを叩けるように, 3種類のリズムパターンを提示する。 ◇歌に合わせて打楽器のリズムを打っている。<表現①>
	1	○『いろいろな木の実』を打楽器やリズムの組合せを変えながら演奏する。	○リズムの違いによる曲想の変化に気付けるように, 歌に合わせて自由に楽器やリズムを変えて演奏する機会を設定する。 ◇歌に合わせて打楽器やリズムを変えながら演奏している。 <表現②>
すまとめる・生か	1	○『言葉でアンサンブル』をグループごとにつくる。	○言葉を使って音楽をつくるための発想を得られるように, 即興的に言葉を当てはめて遊ぶ時間を設定する。 ◇言葉を組み合わせる音楽をつくることについて思いや意図をもって発言したり, 記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『言葉でアンサンブル』を発表する。	○様々な組合せを工夫しながら音楽をつくれるように, グループごとにつくったアンサンブルを紹介する機会を設定する。 ◇友達と言葉を組み合わせながら音楽をつくっている。 <表現①②③>
【備考】 ・音楽を形づくっている要素: 音の重なり, 音色 ・音符, 休符, 記号や用語: 付点8分音符, 16分音符			

題材	3 ちいきにつたわる音楽に親しもう			6・7・8月（6時間）
目標	日本の民謡の歌声や楽器の音色を味わいながら聴き、曲に親しむ。			
評価規準	(①知・技)日本の民謡の歌声や楽器の音色と曲想との関わりについて気付く。 (②思・判・表)日本の民謡の歌声や楽器の音色が生み出すよさを見いだしながら、日本の民謡を味わって聴く。 (③主体的態度)日本の民謡の歌声や楽器の音色に関心をもち、地域の音楽に親しもうとしている。			
教材	こきりこ 富山県民謡／市川都志春 編曲 p26			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞ ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『こきりこ』や『八木節』の動画を鑑賞し、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 地域に伝わる音楽に親しもう	○郷土や日本の各地に伝承されている楽曲に関心をもてるように、『こきりこ』と『八木節』を比較鑑賞する機会を設定する。	◇郷土や日本の各地に伝承されている楽曲の特徴に気付き、伝えたり、記述したりしている。 <発表・記述②>
追求する	1	○『こきりこ』の模範演奏を聴いたり、真似して歌ったりする。	○歌詞や旋律の特徴に気付けるように、旋律の上がり下がりに合わせて手を動かしながら歌う機会を設定する。	◇『こきりこ』の歌詞や日本音階の旋律と曲想の関わりに気付き、関心をもちて聴いたり、歌ったりしている。 <表現①>
	1	○日本の様々な地域に伝わる音楽を聴く。	○様々な地域の音楽に関心をもてるように、「身近な地域」「いったことのある地域」など知っている地域から聴く機会を設定する。	◇日本の民謡や歌声味わいながら聴き、よさについて発言したり、記述したりしている。 <表現②>
家庭		○地域に伝わる音楽について調べる。		
生かす	1	○調べてきた地域に伝わる音楽を紹介する。	○音楽と結び付けながら紹介し合えるように、児童の調べてきた地域に伝わる音楽の音源を用意する。	◇音色や旋律などの曲の特徴と曲想を結び付けながら、声や音の出し方を工夫して演奏している。 <表現①②③>
【備考】				
・DVD, 民謡の範唱CD, 表現カード, こきりこ, ささら, 和太鼓等の楽器を準備する。 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素：音色, 旋律, 反復, 拍の流れ ・題材のつながり：「ちいきにつたわる音楽でつながろう」				

音楽科 4年

題材	4 せんりつのとくちょうを味わおう			9・10月(5時間)
目標	曲想と旋律の特徴の関わりに気づき、旋律の特徴の違いを味わって聴いたり、旋律の特徴に合わせて奏法を工夫して表現したりする。			
評価規準	(①知・技)曲想と旋律の特徴との関わりに気づき、旋律の特徴に合う声や音で演奏したりしている。 (②思・判・表)曲想に合う旋律の特徴を生かして演奏することについて思いや意図をもったり、旋律の特徴を味わいながら聴いたりしている。 (③主体的態度)旋律に関心をもち、旋律の特徴の違いを生かして演奏したり、味わって聴いたりすることに進んで取り組もうとしている。			
教材	ゆかいに歩けば 保富康午 作詞 メラー 作曲/加賀清孝 編曲 ハ長調 4分の2拍子 p30 白鳥/堂々たるライオンの行進【鑑】 サン=サーンス 作曲 p34・35 とんび 葛原しげる 作詞 深田貞 作曲 ハ長調 4分の4拍子 p36			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『堂々たるライオンの行進』と『白鳥』を聴き比べ、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ 旋律の特徴を感じ取ろう	○旋律の特徴の違いを聴き取ることができるよう、曲想の違う『白鳥』と『堂々たるライオンの行進』を比較鑑賞する機会を設定する。	◇なめらかな感じと一音一音はっきりした感じとの違いに関心をもち、よさや面白さについて発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③>
追求する	1	○『白鳥』と『堂々たるライオンの行進』を聴き、紹介文を書く。	○曲想と旋律の特徴とを関連付けて聴けるように、それぞれを黒板に整理して提示する。	◇なめらかな感じと一音一音はっきりした感じとの違いに気づき、曲想と結び付けて発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『ゆかいに歩けば』の旋律の特徴に合わせて体を動かす。	○曲想と旋律の特徴の関わりを生かして体を動かせるように、歌詞や旋律から曲のイメージを思い浮かべる時間を設定する。	◇曲想や旋律から曲のイメージを思い浮かべ、伝えている。 <発言②>
	1	○『ゆかいに歩けば』の旋律の特徴を生かして歌う。	○『ゆかいに歩けば』の歌詞の内容と曲想との結びつきに気付けるように、歌いながら体を動かす活動を設定する。	◇旋律の特徴に気づき、旋律に合わせて歌っている。 <表現①>
生かす	1	○『とんび』を聴いたり旋律の特徴を生かして歌ったりする。	○とんぴの様子と、旋律の呼びかけとこたえとを関連付けて演奏できるように、ペアでとんぴの様子に合った声の出し方を相談しながら歌う機会を設定する。	◇歌詞の内容や旋律の特徴に気を付けて、歌い方を工夫しながら、自然で無理のない声で歌っている。 <表現①②③>
【備考】				
・よりどころとなる音楽を形づくっている要素：音色、旋律、呼びかけとこたえ、強弱 ・音符、休符、記号や用語：スタッカート、ピアノ ・題材のつながり：3年「せんりつのとくちょうをかんじとろう」				

音楽科 4年

題材	5 旋律の重なりを楽しもう			10・11月(7時間)
目標	曲想と旋律の重なりとの関わりに気付き、重なり合う響きを生かしながら旋律を重ねて表現したり、味わって聴いたりする。			
評価 規準	(①知・技)曲想と旋律の重なりとの関わりに気付き、きれいに音を重ねながら歌ったり、リコーダーを演奏したりしている。 (②思・判・表)曲想と旋律の重なりとの関わりを生かして、声の出し方や息の使い方を工夫しながら旋律を重ねることについて思いや意図をもったり、旋律の重なり合う響きを味わって聴いたりしている。 (③主体的態度)旋律の重なり合う響きのよさを感じ取りながら、進んで声や音を重ねて表現する活動に取り組もうとしている。			
教材	ファラドール【鑑】 ビゼー作曲 p39 オーラリー 阪田寛夫 日本語詞 ジョージ プールトン 作曲/長谷川匡俊 編曲 ハ長調 4分の4拍子 p42 もみじ 高野辰之 作詞 岡野貞一 作曲/中野義見 編曲 ヘ長調 4分の4拍子 p44			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『ファラドール』を旋律の重なり気に気をつけて聴き、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 旋律の重なりを感じ取ろう	○曲想の違いを感じ取れるように、場面の移り変わりに合わせて体を動かしながら聴く機会を設定する。	◇曲の気分が変化する理由を旋律の重なりを結び付けながら聴き、それらについて発言したり記述したりする。 <表現②>
追求する	1	○『オーラリー』の主旋律や副旋律を階名唱したり、リコーダーで演奏したりする。	○サミングや基本的な奏法を常に意識できるように、運指表と奏法についてまとめた模造紙を用意する。	◇サミングや、基本的な奏法に気を付けてリコーダーを演奏することについて思いや意図をもち、発言している。 <発言①>
	2	○『オーラリー』をリコーダーで二重奏する。	○旋律の重なり合う響きの美しさに気付けるように、演奏するグループと演奏とを聴くグループに分かれ、互いの演奏を聴き合う時間を設定する。	◇きれいに音を重ねながら、リコーダーを演奏している。 <表現①>
	2	○『もみじ』の主な旋律と副次的な旋律を歌う。	○曲想と旋律の重ね方の関わりに気付けるように、旋律の重なり方が変化する場面ごとに聴き、曲のイメージを伝え合う時間を設定する。	◇歌詞の表す情景に合うよう、旋律の重ね方を工夫して歌っている。 <表現②>
生まとすめる	1	○『もみじ』の旋律の重なり合う響きを味わいながら、声を重ねて歌う。	○旋律がきれいに重なり合う響きで演奏できたことを実感できるよう、学級を小集団に分け、お互いの歌声を聴き合う機会を設定する。	◇曲想と音の重なりとの関わりについて気付き、お互いの声の重なる響きを楽しみながら、声を合わせて歌っている。 <表現①②③>
【備考】 ・拡大譜、DVD、リコーダー運指表を準備する。 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素：音の重なり、拍、音色 ・題材のつながり：3年「いろいろな音のひびきに親しもう」				

音楽科 4年

題材	6 いろいろな音のひびきで表現しよう			1・2月(9時間)
目標	いろいろな楽器の音色や響き、音の重なりを感じ取って合奏をしたり、打楽器で音楽をつくったりする。			
評価規準	①知・技)楽器の音色や響きと、音の重なりに関わりを理解し、鍵盤楽器やリコーダーなどの楽器の奏法を身に付け、演奏している。 ②思・判・表)いろいろな楽器の音色や響き、音の重なりを感じ取り、音量のバランスや奏法を工夫したり、叩き方や組合せを工夫して音楽をつくったりしている。 ③主体的態度)合奏することの楽しさを感じ、楽器の音色や響きに関心をもって合奏や、打楽器での音楽づくりに取り組もうとしている。			
教材	茶色の小びん 芙龍明子 日本語詞 ヨセフ ウィンナー 作曲/浦田健次郎 編曲 ハ長調 4分の4拍子 p 5 4 打楽器の音楽 p 4 8			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『茶色の小びん』の範奏を聴いたり、主旋律を演奏したりして、学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 学習のめあて 音の響きを感じ取って演奏しよう </div>	○楽器の音の重なりを意識できるように、聴こえた楽器を全体で共有する場を設定する。	◇合奏することの楽しさを感じ、楽器の音色や響きについて気付いたことを伝えたり、進んで演奏したりしている。 <発表・記述③>
追求する	1	○『茶色の小びん』の主旋律を、鍵盤ハーモニカで繰り返し演奏する。	○自信をもって演奏できるように、運指を黒板に提示する。	◇鍵盤ハーモニカの運指に気を付けて演奏している。 <表現①>
	1	○『茶色の小びん』の分担を決めてパートごとに合奏する。	○同じ楽器同士で教え合って練習できるように、パートごとに練習する場所を区切って設定する。	◇鍵盤ハーモニカの音程やリズム、奏法を工夫している。 <表現・記述②>
	1	○『茶色の小びん』をパートや全体で合奏する。	○音の重なりを意識して合奏できるように、演奏し始めるタイミングで手を叩く時間を設定する。	◇鍵盤ハーモニカやその他の楽器の奏法を身に付けて演奏している。 <表現①>
	1	○『茶色の小びん』のパートの音量のバランスを考えながら合奏する。	○音量のバランスや奏法による音色の違いに気付けるように、様々な演奏を比較鑑賞する時間を設定する。	◇パートごとの音量のバランスや、奏法を考えて発言したり、考えたことを生かして演奏したりしている。 <発言・表現①②③>
		○『打楽器の音楽』をつくる。	○強弱を工夫して打楽器を叩けるように、強弱を図形に記したカードを用意する。	◇音の響きを確かめながら、強弱を工夫して打楽器を叩いている。 <表現②>
	1	○グループで『打楽器の音楽』を演奏する。	○楽器やその組合せを工夫できるように、強弱を図形に記したカードを並び替えながら試行する時間を設定する。	◇楽器やその組合せを工夫しながら、グループでリズムをつなげて演奏している。 <表現②>
生かす	1	○ミニコンサートで発表する。	○いろいろな楽器の音色を合わせて演奏できるようになったことを実感できるように、前時までに録音してある演奏と比較鑑賞する時間を設定する。	◇楽器の音色や響きを感じ取りながら、楽しく演奏している。 <表現・記述③>
【備考】 ・ミニコンサートを3学期の学習発表会としてもよい。 ・DVD, 拡大譜, 範奏CD, 打楽器等を準備する。 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素: 音の重なり, 拍, 音楽の縦と横との関係, 音色, 強弱 ・題材のつながり: 4年「旋律の重なりを楽しもう」				

題材	7 思いを音楽で表現しよう			3月(8時間)
目標	曲の気分を感じ取り、曲の気分と速度、旋律、強弱などを結び付けながら、互いの音を合わせて演奏している。			
評価規準	(①知・技)曲の気分と速度、旋律、強弱などとの関わりについて気付き、曲の気分を感じ取り、互いの音を聴きながら音を合わせて演奏している。 (②思・判・表)曲の気分と速度、旋律、強弱などとの関わりを生かし、曲の気分にあう表現の仕方について思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だしながら曲全体を味わって聴いたりしている。 (③主体的態度)曲の気分と速度、旋律、強弱などとの関わりに関心をもち、曲の気分に合わせて、互いの音を聴き合いながら演奏したり、音楽が表す情景を想像豊かに聴いたりする学習に進んで取り組もうとしている。			
教材	朝の気分(「パール・ギュント」第1組曲より)【鑑】 グリーグ 作曲 p69 山の魔王の宮殿にて(「パール・ギュント」第1組曲より)【鑑】 グリーグ 作曲 p68 ジッパディー・ドゥー・ダー アリー・リュール 作曲 佐井孝彰 編曲 p66			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『朝の気分』や『山の魔王の宮殿にて』を曲の気分を聴き、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 曲の気分や思いを感じ取って演奏しよう	○曲の内容と曲の気分とを結び付けられるように『パールギュント』のあらすじを紹介する機会を設定する。	◇曲の気分を感じ取りながら聴き、場面による曲の気分の違いについて発言したり記述したりしている。 <発言・記述①②③>
追求する	1	○『朝の気分』や『山の魔王の宮殿にて』を聴き、紹介文を書く。	○曲想と速度や旋律、強弱などとの関わりを意識して聴けるように、それぞれの関わりを黒板に整理して提示する。	◇曲の気分と音色や強弱との関わりに関心をもったり、それらを結び付けて発言したり、記述したりしている。 <発言・記述②>
	1	○『学年選択合唱曲』を聴いたり歌ったりする。	○曲に込められた思いを感じ取ることができるよう、曲を聴いて感じたこととその理由を伝え合う機会を設定する。	◇曲に込められた思いを曲想と結び付けて聴き、感じたことを発言したり記述したりしている。<発言・記述②>
	1	○『学年選択合唱曲』の担当の旋律を歌う。	○自分たちの旋律を歌って覚えることができるように、音源を配付し声を合わせて歌う機会を設定する。	◇正しい音程で自分の旋律を歌っている。<表現①>
	2	○『学年選択合唱曲』の思いを考えて歌う。	○曲に込められた思いを表現する意識をもつことができるように、歌詞に合わせて歌い方を考え試す機会を設定する。	◇曲に込められた思いを生かして歌うことについて、思いや意図を発言したり記述したりしている。<発言・記述②>
	1	○『学年選択合唱曲』を学年で歌う。	○保護者に向けて発表する意欲や、旋律を重ねて表現する楽しさを実感することができるように、学年音楽の時間を設定する。	◇友達と声を合わせて音を重ねて表現する楽しさを感じ、進んで表現しようとしている。 <表現③>
まとめ	1	○『学年選択合唱曲』を発表する。	○曲の思いを感じ取りながら音を合わせて演奏できたことを実感できるように、保護者に発表する場を設定する。	◇曲の思いや強弱などとの関わりについて気付き、互いの音を聞きながら音を合わせて演奏している。 <表現①②③>
【備考】 学習する音楽を形づくっている要素：音の重なり、速度、旋律、強弱				

音楽科 4年

題材	8 日本の音楽でつながろう		2・3月(7時間)
目標	郷土や日本の各地に伝承されている楽曲の特徴を感じ取りながら、聴いたり、表現したりする。		
評価規準	(①知・技)曲想と日本の楽器の音色や音階との関わりに気付き、音色や響きに気を付けて演奏したり、五音音階から音を選んでまとまりのある旋律をつくったりしている。 (②思・判・表)日本の楽器の音色を生かして表現したり、日本の音階の特徴を生かして旋律をつくったり、日本の楽器の音色やよさを味わって聴いたりしている。 (③主体的態度)和楽器の響きに関心をもって聴いたり、箏の演奏や旋律づくりに進んで取り組もうとしたりしている。		
教材	こと独奏による主題と6つの変奏「さくら」より【鑑】 藤井凡大 作曲 p58 津軽じょんがら節／ていんさぐぬ花【鑑】 青森県民謡／沖縄県民謡 p59 さくらさくら 日本古謡 2人でせんりつづくり p62		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
であう	1	○『さくらさくら』を聴いて、和楽器の響きの美しさを感じ取り、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 和楽器のひびきを味わいながら箏を演奏しよう	○日本独自の楽器や楽譜に対する関心を高められるように、実物の箏や楽譜を提示する。
追求する	1	○箏の扱い方や基本的な奏法に気を付けて『さくらさくら』を演奏する。	○正しい姿勢や奏法で演奏できるように、グループに分かれて試行する時間を設定する。
	1	○『さくらさくら』を基本的な奏法に気を付けて演奏したり、歌ったりする。	○弦の弾き方や姿勢に気を付けて演奏できるように、隣の弦で止めることと、箏に対して斜めに座ることなどを黒板に掲示する。
	1	○『さくらさくら』を伴奏に合わせて演奏する。	○全員で音を合わせて演奏できるように、伴奏の速度を調整しながら提示する。
まとめる・生かす	2	○5つの音を使ってペアで旋律をつくる。	○5つの音を使って旋律をつくるための発想を得られるように、即興的に音を当てはめて音遊びをする時間を設定する。
	1	○5つの音を使って旋律をつくり、つくった旋律を発表する。	○イメージに合う旋律をつくれるように重ね方やつなげ方、繰り返しを工夫しているペアの旋律を紹介する機会を設定する。
評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」			
◇箏と尺八が織りなす響きについて記述している。 <発表・記述②>			
◇箏の音色の特徴がよく現れる弦の弾き方を見付け、演奏したり発言したりしている。 <表現・発言②>			
◇曲に合わせて弦の弾くことについて思いや意図をもち発言したり演奏に生かしたりしている。 <表現②>			
◇弦の弾き方や姿勢を身に付けて、音を合わせて箏を演奏している。 <表現①>			
◇5つの音をつかって旋律をつくることについて思いや意図をもち、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>			
◇つくりたい曲のイメージに合わせて音を選んで音楽をつくっている。 <表現・記述①②③>			
【備考】 ・DVD, 民謡の範唱CD, 表現カード, 和太鼓等の打楽器を準備する。 ・学習する音楽を形づくっている要素: 音色, 旋律, 反復			